

http://www.minamih.net/



12・11・18(日)
南NEWS NO51

4年生赤の市民体育祭結果

期日 2012.11.3/11.4 (土)(日) 会場 (土)八石下グラウンド (日)柏木小学校
対戦チーム (土)OKSC-B (日)なかのC

○チームのめあて

- 1) ボールを持っている敵に早くアプローチする。
- 2) 敵にぶつけないように、ゴールを目指してドリブルする。
- 3) ワンツースを使い攻撃する
- 4) 敵より先にボールに触る。
- 5) 第一DF・第二DFを明確にしドッチングでボールを取る。
- 6) 選手みんなでコーチングをする。

○めあての達成度

- ・ドリブル・アプローチ・ボールを取られたら取り返す
全試合において全選手GAMB Aって自分たちのめあてを達成しようとする意識がとても感じ取れました。

○コーチ所見 (記入者: 岩田 知)

- 南八王子 VS OKSC-B 結果: 0-5 (前半:0-5) (後半:0-0)
 - 南八王子 VS なかのC 結果: 3-1 (前半:0-0) (後半:3-1)
- 得点者 小澤くん(2)・岩田君(1)
- ・小澤くんカウターよりドリブルシュート
 - ・小澤くんミドルシュート
 - ・岩田くんゴール前で小澤くんよりパスを受けシュート



第一試合は久々の試合で子供たちも動きが固くあまり良いプレーが見られませんでした。二試合目からは緊張もほぐれたのか 子供たち一人一人のモチベーションも高くなりました。

一試合・一試合自分たちの目当てを目標ことでもよく戦ったとおもいました。

今回の成果は何といっても4年生になりパスと言う新しい戦術を取り入れながらプレーをするといった個人個人新しいプレースタイルが見られでも南のサッカーのドリブルも忘れずに良いプレーをしていました。

b y 岩田知コーチ

市民大会 6年生赤 レポート 2012.11.11 緑が丘小 南八王子(赤) 0-3 西八(前半0-1) 負け

皆が決めた試合の「めあて」は、ビルドアップ、パス&ムーブ、ミドルシュートです。自陣からでもつないで、ハーフラインを越えて攻める、という意思を皆が持ちました。

相手チームには読まれていましたが、それを知った上で、キーパの黒沢君がサイドバックの関谷君に出し、顔を出したMF松宮君へパスを通し、トップの西澤君がワンタッチで相手ディフェンダーの裏に抜けたプレーは8人全員の動きから生まれたプレーでした。中盤でボールを奪った山崎君が横に動きながらサイドバックの関谷君にボールを預け、リターンをもらい、裏に走りこんだ関谷君に出したパスにも、二人の意識と全員の動き出しがありました。

しかし、シュートまで行けません、また、ミスも出るため、自陣でのプレーが多く、センターバックの永末君とキーパの黒沢君が大活躍でした。黒沢君は、相手との1対1を止めたり、裏に抜け出した相手に果敢に飛び出します。そして、その後ろをダッシュで戻った永末君が守るなど、ほとんど自陣で戦った前半を、1点で押えました。

後半開始早々に、気仙君が自陣でカットして、それを見てパスをうける位置に開いた濱野君につなぎ、濱野君が得意のドリブルでプルバックまで行きます。関谷君が自陣深くで相手から奪ったボールをセンターバックの永末君が受け、気仙君までつなぎ、逆サイドから攻めようとしたプレーにも、自分たちで決めた「めあて」のビルドアップとパス&ムーブへの強い意識を感じました。

ベンチの指示でキーパーから大きく蹴ったボールには、トップの村山君がナイストラップから前を向いて仕掛けたり、落としたりと厳しいマークの中頑張りました。皆で決めたもうひとつのめあて、ミドルシュートは、少ない得点機でもシュートを撃っていかうという意識の表れでした。けれど、2度のミドルシュートの絶好期には、松宮君、関谷君はドリブルを選択しました。決して悪い選択ではなかったと思います。試合後、仲間の中から「あそこでミドル撃てばよかったのにね」という声がありました。皆がその場面を思っ話しました。これも「めあて」を意識して試合に臨んでいた表れだったと思います。

簡単に結果は出ないけど、自分たちの決めた「めあて」を最後までやりきろうとして勝つことを目指した選手たちに大きな成長を感じました。

b y 伊藤コーチ

ワールドカップ予選 アウェイのオマーン戦に学ぶ

金曜日の午後練の最初に子どもたちに訊きました。「日本が勝ったポイントは何か?」。「GAMB Aったから」などと答えてくれましたが、勝利を決めた2点目のクロスを入れた酒井高選手のドリブル突破だと答える子はいませんでした。

「いつも言ってるよね。目の前にいる相手を抜いたらクロスを上げられる、シュートを撃てるという時に勝負する、勝負して抜ける人になるうって。長友選手がそうだよ。酒井選手がその勝負をして勝ったからあの2点目が生まれたんだよね」

守備網を整えてきっちりマークしているところを突破していくのは容易ではありません。ドリブル突破することにより相手守備網を崩すことができるのです。ボールウォッチャーになったオマーンDF陣は岡崎選手をマークできませんでした。

ボールを持っても奪われないドリブルの力が周りを観る余裕を生み、華麗なパスワークも可能にするのです。

b y 南のアンパンマン